

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ジャダムバ・ハグワデムチグ

氏名のローマ字表記：Jadambyn Lkhagvademchig

所属：モンゴル国立大学教養科学部文化・社会人類学科（専任講師）

専門分野：社会人類学・仏教学

発表のタイトル：双頭のモンゴル仏教：現代モンゴル仏教の主導権をめぐるジェプツンダンバ9世とガンダン寺院管長のポリティクス

(Khoyor terguuntei Mongol Buddhism: Orchin yeiin Mongol Buddhin shashiny noyorhol talaarkh 9-r Jebtsundamba ba Gandan khiidiin khambyn politiks)

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表は、かつて北モンゴルにおける仏教の法主であったジェプツンダンバと社会主義時代にモンゴル仏教の管長たる地位が確立されたガンダン寺院の管長との間における駆け引き（ポリティクス）を考察することを目的とする。

20世紀初頭、ソ連の影響と支援を受けて、人民政府のもとで、近代的な社会主義国家としてモンゴルは独立した。その当時、因習化して時代遅れになっていたジェプツェンダンバ活仏を長とする仏教寺院制度と対峙した。人民革命党は、同活仏を始めとする諸活仏の認定を禁止した結果、最終的に仏教寺院制度を強制的に解体した。しかしながら、第二次世界大戦以降、ソ連の地政学的な政策を受けて、「前衛的仏教徒（社会主義者のラマ）」が総本山ガンダン寺の僧院長（ハンボラマ）を務める、社会主義的なモンゴル寺院制度が確立された。

ところが社会主義体制が崩壊してまもない1991年、社会主義以前の外モンゴル最大の転生ラマ（活仏）である「ジェプツンダンバ9世」がインドでダライラマによって認定された。その結果、ウランバートルにいるガンダン寺の僧院長と、ダラムサラにいる亡命チベット人のジェプツンダンバ9世という、二人のモンゴル仏教の最高指導者が併存する状況が生み出された。いったい、ジェプツンダンバ9世とガンダン寺院管長のどちらが「真の最高指導者」なのか？

本発表では、現代モンゴル国の仏教界における両者の主導権をめぐるポリティクスについて政党や外的要因（チベット亡命政府、中国など）を考慮に入れながら、考察していきたい。